



# 明和病院だより



2015年6月号

## (1) 医師から皆様へ く胆のうの病気について

胆のうは腹部の右上あたり、肝臓の下にある袋状の臓器です。肝臓で作られた胆汁を貯蔵し濃縮する働きがあります。日常診療でよくみられる胆のうの病気には、胆石症(胆のう結石症)、胆のう炎、胆のう腺筋腫症、胆のうポリープ、胆のう癌などが挙げられますが、これらは互いに合併することも少なくありません。一般に、腹痛や黄疸で病院を受診して発見されますが、健康診断や人間ドックのメニューにある腹部エコー(超音波検査)で見つかる機会も増えています。



治療法は、たとえば同じ胆石症でも、経過観察が可能なものから入院して薬物治療、手術治療を要するものなど、個々の患者様によって様々です。手術は、胆のうを摘出するだけの場合はおよそ8割の患者様で腹腔鏡下手術が行われており、比較的短期間の入院で済んでいます。しかし、胆のう癌では大きな手術が必要となることがあり、全ての術式に対応出来る病院は限られています。



当院では、切除可能な胆のう癌はもちろん、60歳以上の方で胆のう炎を起こしたことのある方、1cm以上のポリープを指摘されている方などには、手術をお勧めしています。また、無症状の胆石症や胆のう腺筋腫症、良性と思われるポリープでも、年に1回程度はエコーなどの検診を受け変化のないことを確認することが大切です。突然の腹痛はもちろん、

食後の腹痛や下痢でお悩みの方、過去に胆のうに異常を指摘されたことのある方はどうぞお気軽にご相談ください。 外科 医長 生田 真一

## (2) 眼科より く こどもの弱視治療のご紹介

眼科の診療では小児の患者様も多く来られます。主には学校健診後の精密検査やアレルギー性結膜炎などですが、ときどき弱視のお子さまも受診されます。弱視があっても外見では異常には見えません。ましては、子供では見えにくいと訴えることもほぼまれです。眼を細める、左右の眼の方向が違うなど、お父さま、お母さま、周りの方が気付いてあげることが病気の早期発見につながります。



こどもの弱視というのは、視力の発達時期(生後から約8歳頃まで)に必要な

「視覚的刺激」を経験しないために視力の発達が遅れ、正常な視力が獲得できていない状態をいいます。この発達時期を過ぎると、正常な視力の達成が出来ず、大人になって眼鏡をかけても視力が十分に出ないこととなります。発達時期において「視覚的刺激」を妨げる弱視の原因としては、主に斜視・屈折異常(遠視や近視や乱視)があります。

治療には、眼鏡による屈折矯正とアイパッチ治療が行われます。こどもの場合、ピントを合わせる力が強いいため、それを除去する目薬を使用し精密な屈折検査(遠視・近視・乱視の度)を行い、適切な眼鏡を処方します。(弱視治療に係る眼鏡購入費用は療養費として健康保険が適応される場合があります。)

左右で視力差がある場合、アイパッチ治療も併用されます。これは、見えやすい方の眼をアイパッチ(絆創膏)で隠し、見えにくい眼(弱視眼)を優先的に使わせる治療です。治療中は、弱視眼の成長を促すために率先して眼を使う事が重要となり、家庭で出来るぬりえや絵本など見る作業を増やすよう指導します。当院ではこどもの発達に適した視力検査、訓練・治療を行っています。さらに治療効果を高めるために、院内の弱視治療・アイパッチ実施ノートを導入しました。治療に対する理解・モチベーションを高め効果を上げる事が期待されます。

「お子さまの眼の状態が気になる」「特に異常は感じないが目の検査を受けてみたい」…こどもに合わせた検査を行います。気軽に眼科を受診して下さい。

## (3) 医療講座(公民館主催)のお知らせ

- ・演 題 : 高齢者のための形成外科治療
- ・講 師 : 形成外科 医長 芝岡 美枝
- ・日 時 : 6月10日(水) 14:00~15:30
- ・場 所 : 鳴尾東公民館(Tel 49-1300) ※無料(参加自由)



## (4) レストラン、コンビニ、医療売店のご案内

本館5階にレストラン、南館1階にコンビニ及び医療売店が営業をしておりますので、ぜひご利用ください。

[営業内容]

店 名	営業時間		
	平日	土曜日	日曜・祝祭日
喫茶・レストラン 無糖派がインガ「ひさ家」	7:30~18:30 ※オーダーストップは30分前	7:30~15:00	休業
コンビニ 「サークルKミニ」	7:30~20:00	7:30~15:00	7:30~13:00
医療材料売店	9:00~17:00	9:00~13:00	休業

(編集発行人: 事務部長 沖田 明弘)